



今日は、先週に続いてダビデ王の詩篇である51篇を味わいます。
この詩の中心的なことばは「神へのいけにえは砕かれた霊。打たれ砕かれた心。神よあなたはそれを蔑まれません」(17)とのことばです。この詩篇は、表題にあるように彼が実際に犯した姦淫と殺人の罪ががります(サムエル記第二11章)。彼の賛美の美しさは、彼が罪を心から知って、そして自分の罪を神の前に悔い改めた人だからです。

① 「私の罪」を知ること

“神よ 私をあわれんでください。あなたの恵みにしたがって。
私の背きをぬぐい去ってください。あなたの豊かなあわれみによって。
私の咎を 私からすっかり洗い去り 私の罪から私をきよめてください。
まことに 私は自分の背きを知っています。私の罪は いつも私の目の前にあります。…
ご覧ください。私は咎ある者として生まれ 罪ある者として 母は私を身ごもりました。…”

1-

② 新しい心を求める祈り

“神よ 私にきよい心を造り
揺るがない霊を 私のうちに新しくしてください。
私を あなたの御前から投げ捨てず
あなたの聖なる御霊を 私から取り去らないでください。
あなたの救いの喜びを私に戻し 仕えることを喜ぶ霊で 私を支えてください。” 10-12

③ 大切なのは、砕かれた心

“まことに 私が供えても
あなたはいけにえを喜ばれず 全焼のささげ物を望まれません。
神へのいけにえは 砕かれた霊。
打たれ 砕かれた心。
神よ あなたはそれを蔑まれません。” 16-17

<話し合ってみましょう>

- ・自分の罪の行為というよりも、むしろ自分の罪の性質ということに気がついた経験がありますか。話し合える範囲で分かち合ってみましょう。